

令和元年度 学校経営の具体的な取組

岡山県立総社南高等学校

【評価】 A:達成基準を上回った。 B:ほぼ達成基準どおり。 C:達成基準を下回った。

(●は取組評価)

学校経営目標		担当	具体的計画	達成基準	最終達成状況と評価	
					達成状況	評価
目標1 主体的・対話的な「深い学び」を通して、未来を切り拓く知識・スキル・意欲を育	自立的な学習態度を身に付けた生徒を育て、生徒の夢を実現する。	1年	○予習・復習・課題の点検を行い、基礎基本を定着させる。 ○授業のチャイム開始、4点固定、考査ごとのPDCAサイクルなどの家庭学習習慣を意識させる。校外模擬試験で評価する。	校外模擬試験において ○54以上の生徒が36人(15%)以上、 ○40以下の生徒が24人(10%)以下になる。	●学習習慣の定着については、居残り指導での対象生徒が減少傾向にあるなど一定の成果が見られる。 ○7月、11月実施の進研模試の結果は達成基準を上回るものであったが、10月、1月実施の学習実態調査では、例年を大幅に下回った。Classi入力ではなく、用紙で実施したら例年並みとなったため、Classi入力の指導方法を改善していきたい。	B
		2年	○年間を通して授業を軸とした予習・授業・復習を繰り返させ、主体的に家庭学習に取り組ませる。 ○自分の進路を明確にするために、面談や総合的な学習の時間を効果的に活用する。	○半数程度の生徒が1日の平均150分以上の学習時間を確保している。 ○校外模擬試験において、年間を通して各教科の平均偏差値が同等である。	●1月に実施した学習実態調査で、学習時間が1日平均126分だった。入学時のものに類似している。クラス、または生徒によって平均学習時間が150分を超え、受験準備に入った生徒とまだまだの生徒と二分している感がある。地歴、理科の家庭学習はほとんどできておらず、3教科に加えて地歴、理科を取り組ませ、確実に学習時間を確保する指導が必要だ。 ○進研模試では、11月からは少し持ち直したが、7月模試の結果(3教科平均SS47.41)を維持できなかった(3教科平均SS46.1)。	C
		3年	○志望学部・志望校を明確にさせ、計画的に学習に取り組ませる。 ○目標に向けて、あきらめることなく最後まで努力を続けさせる。	○1日の平均学習時間が4時間、部活動引退後は5時間の生徒が67名(25%)以上である。 ○国公立現役合格者数が67名(25%)以上、岡山大学以上合格者数が15名以上である。 ●最後まで授業に出席させ、M講座などへの積極的な参加を呼びかける。	○2学期以降は入試対策の時期に入り、家庭学習時間の調査は実施していない。学習時間は目標達成には至っていないが、多くの生徒が進路の目標を達成させてきた。(1月22日現在で147名が進路決定)。最後まで進路実現に向けてサポートしていく。	B
		国語	○「主体的・対話的で深い学び」のある授業を実践するために、これまでの授業を見直し、授業手法を検討する。 ○効果的な目標設定やアプローチの仕方について共通理解を持ち、教材の効果的な活用方法について検討を重ね、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業を実践しながら指導力を高めていく。	●グループワークなどを通して、伝え合う力や教え合う力を伸ばし、深く思考する力を養う取組を行う。 ●生徒にとってどのような目標設定やアプローチの仕方が効果的なのか、共通理解や目標をもった授業を実施できるようになる。	●昨年度の経験を活用しつつ、国語科で協力して伝え合う力や教え合う力を伸ばし、深く思考する力を養う授業づくりを進めた。今後は、単元内容や授業の進度、生徒の様子を見ながら実践し、ブラッシュアップしていく。 ●「生徒にとって、目標設定やアプローチの仕方が効果的だった」「共通理解や目標をもった授業を実施できたか」などについて、授業アンケートを実施した結果、ほとんどの生徒には、効果的であり、実施できたと肯定的な意見が多くみられた。特に、「めあて」の提示については、おおむね高評価であった。	B
		地歴公民	○「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた実践を恒常的に行い、教科内で組織的に学力向上に効果的な手法を研究する。	●グループワークや学びあいなど講義形式以外の手法を授業に取り入れ、IT機器を効果的に活用する。 ●教科研修会等により、生徒の学力向上にとって効果的な方法の開発を目指す。	●ICT機器を十分活用できている。グループ学習や話し合い活動を積極的に取り組んでいる科目もある。 ●教科の研修にも参加し、生徒の学力向上や新課程についての情報共有ができている。	B
		数学	○生徒自らが学び合いの姿勢で学習できるようにICT機器の利用やグループ学習を取り入れた授業づくりに取り組む。	●主に学年内で指導の研修・研究を行い、効果的な教材や指導法を取り入れた授業が実施できるようになる。	●1年では、グループ学習を中心とした授業が継続的に行えた。2年では、関数やベクトルなどの理解度を高めるためにICT機器を活用した。3年では、理解度に応じた授業を行うことができた。	B
		理科	○生徒自らが自分の言葉で発見や学びについて表現できるように、効果的にICT機器を利用したりグループワークを取り入れたりした授業づくりに取り組む。	●実験や観察によって生徒自身の気づきや興味を引き出し、その発見を深い学びにつなげられるような授業を実践する。 ○授業アンケートにおいて、70%以上の生徒が、「新しい発見や気づきがあり、『なるほど』と思った。」と回答する。	●効果的なICT利用については、実物投影機や動画コンテンツなどの利用ができた。実習等のグループワークや発表を実施して深い学びにつなげられるような授業実践を行った。 ○2年生理系では90%以上の生徒が「新しい発見や気づきがあり、『なるほど』と思った」と回答した。一方で、2年文系では70%程度にとどまり、理系ほどには理解を深めるにまで至っていないことがわかった。さらに授業改善に努める必要がある。	A
		保健体育	○集団やグループ活動を通じて、課題発見や解決策を話し合いながら見出せ、大会の企画運営を円滑に取り組む。	●個々の能力に応じて、段階をおった練習内容や課題が見つかり、集団やグループの中で声かけが積極的に行われている活動ができるようになる。 ○授業アンケートに80%以上が「協働性をもとに活動できた」と答えている。	●3年の選択授業では、観察やノートチェックによって達成基準の60%を満たした。 ●中間評価から向上させるように取り組んできたが80%達成には至らなかった。3年生後半の授業進行の慣れから狙いを捉えて進めていく場面が疎かになっていた。来年度に向けて1学期と2学期のつながりを明確にさせて取り組ませたい。	B
		芸術	○作品制作や作品鑑賞を受け身ではなく主体的に行い、それを言葉にして相手に伝える活動を取り入れる。	○作品の構想を練ったり鑑賞する際、感じたこと・考えたことを言葉で表現できるよう、授業の中に言語活動を5回以上取り入れる。また、ワークシートの記述で8割の生徒が自分自身の言葉で表現ができています。	○作品の感想などについての言語活動を取り入れ、ほぼ全員の生徒が自分の言葉で具体的に他の人の作品について感想を伝えることができた。まだ表現がつかない生徒もいるが、それぞれの個性に合わせて誠実に言葉で相手に伝える様子が見られた。	A
		英語	○4技能をバランスよく伸ばすことができるような授業を検討し、英語科教員同士が連携して授業改善に取り組む。	●新しい大学入試制度を見据え学力の向上を図るため、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善に英語科教員間で教材や指導法を共有したり、活発な情報交換をしたりして取り組む。 ○3年生の半数以上の生徒がCEFR A2レベル相当以上の英語力を有する。(昨年の3年生は277人中113人がCEFR A2レベル相当以上だった。)	●多くの教員がICT機器やデジタル教科書、電子教材を活用するとともに、ペアワークやグループワークを授業に導入している。1、2年生ではスピーキングやライティングにも力を入れた授業を展開している。年度を通じて、学年ごと、教科全体で効果的な教材や指導法等についての情報交換・情報共有がなされていた。 ○3年生267人中181人の生徒がCEFR A2レベル相当以上の英語力を有する。	A
		家庭科	○日々の実生活に結びつけやすくするために、ICT機器を活用する。 ○グループワーク・ペアワークを積極的に取り入れ生徒同士での自ら進んで学べる授業を展開していく。 ○授業アンケートを実施し現状を把握する。	●ICT機器の活用やグループワーク・ペアワークを行うなかで、友人の意見に耳を傾け家庭科に興味を持つことができる。 ○授業アンケートにおいて、80%以上の生徒が、「家庭科の内容が日々の生活に生かしている。」と回答する。	●ICTを活用しながら授業を行うことができ、生徒が身近に感じやすい画像やグラフを使うことで視覚的に見て学習することができるようになってきた。実習の中でも生徒同士が教え合いながら一生懸命作品作りに取り組んでいる。アンケートに関しては年度末にもう一度実施し、日々の生活に生かされているか振り返りを行う予定である。	B
		教務課	○学習センターの機能を広く活用してもらい、図書館の授業利用の促進を図るとともに、まとまった文章を読む習慣を身に付けることで思考力・表現力を養う。	○授業での図書館利用回数を延べ80回とする。 ○貸し出し冊数を例年同数程度とする。 ○読書感想画、読書感想文の出品件数を例年同数程度とする。	○授業での利用は現代社会、保健体育、総合的な探究の時間などで、目標の80回以上の使用があった。 ○貸し出し冊数はクラス減の影響はあるが、概ね昨年度同様である。 ○出品件数は教科により優秀作を厳選したために減少した。	A
		人文系	○人文系の諸活動を行う際に、「社会での学びにつながる学力や国際感覚を養う」ことを意図している活動であることを生徒に意識させる。	○各行事における事前・事後の指導を通して生徒の目的意識を喚起し、実施後のアンケートで、「これからの学びや国際感覚を高めることにつながった」という回答が75%以上となる。	○11月の校外研修(京都)は、事前学習レポートの提出、判別自主研修計画書の作成、事後の研修レポート・感想文など事前事後の内容も含め、たいへん充実した研修ができた。12月の第2回人文系講演会も、事前の内容告知や事後の感想文窓を通して講演をより有意義なものにしていく。 ○全ての人文系行事終了後、生徒対象のアンケートを実施して今後の改善につなげていく。	A

令和元年度 学校経営の具体的な取組

岡山県立総社南高等学校

【評価】 A:達成基準を上回った。 B:ほぼ達成基準どおり。 C:達成基準を下回った。

(●は取組評価)

学校経営 目標		担当	具体的計画	達成基準	最終達成状況と評価	
					達成状況	評価
育 て る 学 校		理数系	○高大連携事業として岡山県立大学での授業体験を企画実施する。	○体験授業参加後のアンケートにおいて、80%の生徒が「これからの学びに生かしたい」と回答し、感想などが充実した内容で記入されている。	○高大連携事業での体験授業参加後のアンケートにおいて、90%以上の生徒が「興味を持てた」「刺激を受けた」と回答し、今後の学習に生かしたいという意欲的な感想が多く見られた。	A
		美工系	○瀬戸内国際芸術祭の見学を行い、世界の現代アートを生で感じ、国際感覚を養う。 ○前後の学習で作品や芸術祭そのものに関して感じたことを言葉にし、お互いに伝えあうことができる。	●瀬戸内国際芸術祭の見学に行った生徒が全員、そこで気になった作品について具体的に文章で表現できる。 ○事後アンケートで9割以上の生徒が見識が広がったと答える。	●瀬戸内国際芸術祭後に企画した講演会で、直島ベネッセアートサイトに関わったスタッフから作成当時の話を聞き、すでに展示してある作品を鑑賞するだけでなく、それらを企画・設置・運営することにも想像を巡らせ、深く読みとれている感想が見うけられた。アンケートでは、9割以上の生徒が瀬戸内国際芸術祭に行き見識が広がったと回答した。	A
		国際系	○多くの生徒を短期留学や語学研修に参加させ、また本校への滞在を希望する留学生を積極的に受け入れる。 ○語学研修では事前研修を徹底し充実を図る。さらに、HR活動や学校行事などの中で、本校生徒が滞在中の留学生やALTと関わりあえるような仕組みや企画を検討することで、生徒が異文化や生の外国語に触れる機会を増やす。	●留学生やALTを効果的に活用することで、生徒が海外の文化に触れたり外国の人と関わる時間を持っている。 ○アンケートで8割以上の生徒が留学生やALTと関わり英語を使ったり異文化に触れたりできていると回答する。	○どの科目においてもALTと綿密に打ち合わせを行い効果的に授業を行なうことができた。1年生では英語表現Ⅰの国際系クラスにおいてもALTを活用した授業を実施した。滞在中の長期留学生には、積極的に学校行事や学習支援に参加してもらい、多くの生徒が交流を持つことができた。	A
	適切な支援ができるよう担任や教科担任の指導力の向上を図る。	進路課	○進路課としてClassiを進路指導に活用できるようにする。	●1、2年生を対象にClassiの活用方法について研修を行い、統一した方法で活用する。	●1、2年生で連携してClassi配信データ処理等少しずつ実現できている。学習実態調査と進路志望調査で本年度活用できた。	A
		学校改革推進委員会	○組織的に授業力の向上を推進し、主体的に学習に取り組む態度を養い、思考力・判断力・表現力を育む。	○「Jami学習スタンダード」を策定する。 ○「Jami学習スタンダード」を教員が自己評価し、7割以上の教員ができたと評価する。	○「表現」の研究については、先進校視察等により教育内容の構想は固まったが、今後、単位制への改編を見据えて、教育課程上の位置付け等を協議する必要がある。 ○グランドデザインの策定は完了し、簡易版のグランドデザインを作成した。様々な機会を利用して、小・中学校、保護者等に配布した。 ○学習スタンダードについては、約8割の教員から肯定的に受け取られている。実効性を高めるために、3項目の実施率を上げる必要がある。	B
	生徒の進路希望と学力分析に基づいた進路指導の取組を組織的に展開する。	美工系	○生徒の進路志望を細かく把握し、それを美工系の教員で共有し、同じ方向性で指導ができるようにする。	●美工系の会議を可能な限りを毎週持ち、進路に関する情報共有の時間を持つ。	●毎週会議を持ち、その他の時間も情報はなるべく共有している。 ●全員が同じ方向を向くということは難しいと感じるが、バラバラな指導にはなっているわけではなく、教員でコミュニケーションを取りながら生徒に指導をしている。	A
		進路課	○各学年の進路課が学力向上に向けて具体的な取り組みを提案し、学年団教員、各教科と連携しながら実施する。 ○大学入試共通テストの実施方針、プレテストの問題などを研究し、該当学年や学校全体に研究の成果を提供して、組織的に学力向上に取り組む。	○校外模試試験において、1、2年生の全体偏差値48以上の人数が昨年よりも増加している。 ○3年生では国公立合格者数が67名(25%)以上、岡大レベル以上15名になる。 ●全教員と大学入試共通テストについての最新情報を共有する。	○1年生11月は昨年度90名→143名、1月は昨年度110→119名。2年生11月は昨年度129名→104名、1月昨年度127→84名。3年生は1月の時点で国公立合格22名であった。一般合格に期待したい。各学年とも家庭学習時間が少ないのが気になっていたが、進路通信、学年集会、講演会など様々な場面で大切さを伝え最終的には改善が見られたと感じる。 ●共通テストに向けて、延期となったが民間英語検定の準備、様々な説明会など複数の教員で参加し、情報確保に努めた。保護者についても数回の講演会を通じて、情報を提供した。教員も教科で共通テスト対策の講習も受けているので、情報共有して対策を進めていきたい。	B
目 標 2 こ れ か ら の 社 会 を よ り よ く 生 き る た め に 、 心 豊 か な 人 を 育 つ	積極的な生徒指導を行い、生徒のアイデンティティの確立を支援し、その中で自律心や規範意識を考え、正しい行動をする能力を育成する。	1年	○学年団教員が挨拶を積極的に行い、雰囲気作りに努める。アンケート結果で評価する。 ○携帯電話のルールをSHR等で定期的に確認し、理解を促す。年間指導件数で評価する。	○生徒全員が挨拶を通してさわやかな雰囲気をつくる。アンケートで90%以上が「挨拶できた」と回答する。 ○携帯電話指導件数を20以下にする。	○1学年として「先言後礼」を導入するなど、挨拶に関しては組織的にできている。 ○携帯指導件数：20件 9月以降、昇降口ホワイトボードの活用など意図的に指導を行った結果、減少傾向にあったが、年度末に近づくにつれて指導件数が増加傾向にあるので学年全体で注意していきたい。	B
		2年	○規範意識を高めるために、携帯電話や身だしなみの指導を学年団の全教員が機を逃さずその場で指導する。	○携帯電話指導件数を15件以下にする。	○携帯電話の指導件数は8件で目標内にとどまっている。身だしなみは落ち着いているが受験期を意識して今後も丁寧に指導したい。挨拶をされないといけない生徒がいるので教員からも進んで挨拶し、指導を継続したい。自転車の乗り方など、社会の一員としての自覚を意識したマナー指導も継続の必要がある。	A
		3年	○挨拶や学校生活、交通のマナー向上を励行し、生徒一人ひとりの社会性を育む。	○携帯電話の指導なども含めて、生徒指導を10件以内にする。	○11月中旬までで、携帯電話の指導が14件あった。これから社会に出ていくうえで必要なルールの遵守とマナーの向上をしっかり伝えていきたい。	C
	生徒の主体的な特別活動・部活動・社会貢献活動等の更なる活性化を図り、リーダーシップ、社会性・協調性を育む。	生徒課	○年間18回の挨拶運動・交通指導と各学期1回(6月4日、10月4日、2月4日)の全教員一斉挨拶運動に合わせて、風紀委員を中心に挨拶運動を行う。	○校内全体で生徒が主体的に挨拶ができ、学校自己評価アンケートにおいて、80%以上の生徒が「さわやかな挨拶ができている」と回答する。	●生徒は、主体的に挨拶が出来ている。 ○学校自己評価アンケートでは、大半の生徒が「あいさつができている。」と回答している。	A
		生徒課	○各行事を生徒会が積極的に企画し、各種委員会やクラスにおいて主体的に運営する生徒を育む。 ○各行事において生徒に関わりながら主体性を育むよう教員全体に働きかける。	●各行事において、リーダーを中心にクラスやチームで協力する姿が見られる。 ○生徒課アンケートで生徒の満足度が80%以上、また60%以上が「積極的に行事に参加した」と回答する。	●生徒が一丸となって南翔祭(文化の部 体育の部)に取り組み、成果をあげた。 ○アンケート結果によると、南翔祭は満足が60%、おおむね満足が26%で合計80%を超えた。86%の生徒がクラス等協力したと回答している。	A
		教務課	○総探委員会と連携し、社会とのつながりを考えたり、自己の在り方を模索したりする探究的な活動のスムーズな運営を企図する。 ○Classiの効率的な運用について研究を進める。	●第1学年での社会貢献活動報告会、総社南未来探究報告会が実施される。 ●第2学年でポートフォリオや活動報告書の作成方法やタイムテーブルを確立する。	●第1学年で社会貢献活動報告会を実施し、総社南未来探究報告会が実施した。地域交流会の実施や地域と連携した高校の魅力化フォーラムでの発表、第1回プレゼンテーションアワードでの発表を行った。 ●第2学年では進路課を中心として学年全体で探究活動に取り組んでいる。Classiでは学校行事や進路学習を中心にポートフォリオを配信しているが、考査やHR活動などの記録や成長のための振り返りについては、生徒によって活用度合いが異なっている。未来探究発表会を実施して自身のキャリアについて考えることができた。	A
		社会貢献活動推進委員会	○2年間で全員が1日以上インターンシップ(小中幼保での学習支援)に参加できるよう支援する。	○2年生終了時点で、全員が1日以上インターンシップに参加する。 ○社会貢献活動を通じて、80%以上の生徒が充実感を持つ。	○8月31日時点、2年生全員が1日以上インターンシップに参加することができた。 ○社会貢献活動を通じて、生徒の88・9%が充実感を持つことができた。	A

令和元年度 学校経営の具体的な取組

岡山県立総社南高等学校

【評価】 A:達成基準を上回った。 B:ほぼ達成基準どおり。 C:達成基準を下回った。

(●は取組評価)

学校経営 目標		担当	具体的計画	達成基準	最終達成状況と評価	
					達成状況	評価
か で た く ま し い 人 材 を 育 て る 学 校	特別支援 教育の視 点をもつ た教育活 動を推進 する。	生徒課	○4月に各部紹介を行い、部員を勧誘する。 ○顧問が部の活動場所に年に10回は出向き、生徒と関わり、活動を活性化させる。	○部活動の入部率の目標を80%以上をとし活性化させる。 ○戦績は、中国大会以上の出場を10以上とする。 ●部に所属している生徒が他の生徒の模範となる。	○中国大会9、全国大会2と合計8大会に出場している。 ●顧問が活動場所に出向きと生徒との関わることを年10回を目標に呼びかけた。	B
		1年	○学年会議において対象生徒を共通理解し、組織的な支援を行う。	●学年会議において、毎回特別支援の項目を設定し、周知・徹底する。	○対象生徒及び周囲の生徒等を観察した情報を毎週の学年会議で共有し、慎重かつ丁寧に対応できている。	B
		2年	○特別支援教育を必要としている生徒や欠席がちな生徒に対し、臨機応変ににケーススタディを実施する。	○特別な支援を要する生徒の様子、状況が1件でも改善する。	○担任、養護教諭、保護者、部顧問などと連携し、必要に応じてケース会を開き、個々の生徒が抱える様々な問題に応じて手厚く支援した。何人かの生徒について、SSW、医療機関、特別支援学校などの外部機関と連携を図り、安定した学校生活が送れるようになったり、以前より登校できるようになったりした。	A
		3年	○「受験は団体戦」であることを意識させ、計画的に学習に取り組ませる。 ○適切な進路指導・生活指導を行えるように、学年団で相談しながら、組織的に生徒の支援を行う。	●部活動引退後や南翔祭後などに生徒と面談し、受験への切替をスムーズにさせる。 ○学校自己評価アンケートで85%以上の生徒が肯定的な回答をする。	●担任を中心に生徒との面談を密に行っている。学年団全体で、進路課と協力しながら、受験に向けて支援している。 ○自己評価アンケートでは80%の生徒が肯定的な回答をしていた。	B
		厚生課	○特別支援教育を必要とする生徒の把握と共通理解を行う。 ○特別支援教育を必要とする生徒の視点に立ち、教育環境整備を行う。	●特別支援教育コーディネーターが週1回学年主任に生徒の状況を聞き、支援を必要とする生徒を把握する。 ○教室の整理整頓を行い、車いすの生徒や困っている生徒がいなか状況把握する。	●特別支援を必要とする生徒の把握と共通理解は年度当初に委員会を持ち、特に配慮が必要な生徒については、適宜ケース会を開くなど共通理解を図った。 ●特別支援の基礎的な知識と対応について学ぶ教職員研修を企画した。 ●学年主任との情報交換を今後も行うようにする。	B
目 標 3 全 県 学 区 の 普 通 科 と し て、 特 色 あ る 分 野 の 更 な る 魅 力 化 と 新 た な 特 色 化 を 促 進 す る 学 校	国際・人文・理数・美術工芸の4類型を更に魅力化する。	人文系	○有識者による講演会や校外研修など、生徒の進路意識の向上につながる人文系独自の活動を実施する。 ○「人文系新聞」を発行し、時事問題の解説や人文系のテーマを取り上げて情報発信していく。	○有識者による講演会は2回、校外研修は1回以上実施できた。またレポートや感想という形で、生徒が活動を振り返る機会を確保できた。 ○クオリティの高い「人文系新聞」を5回以上発行できた。	○2回の講演会と校外研修(京都研修)を実施した。第1回講演会の感想から、講演者(本校卒業生)の仕事に対する姿勢や考え方に多くの生徒が啓発されたこと、第2回講演会の感想から、心理学に対する学問的な興味を感じた生徒がたくさんいたことが見てとれる。校外研修については、事前学習を行うことで生徒の意識を高め、事後のレポート・感想の提出を通して行事をより有意義なものにすることができた。 ○人文系新聞を5回発行した。人文系行事や地域の文化イベント紹介にとどまらず、時事問題の解説などにも紙面割いて、よりいっそう生徒の主権者意識を高めるものにできた。	A
		理数系	○1、2学期に有識者による講演会を企画実施するとともに、サイエンスチャレンジの参加等、外部団体による各種催しの情報を発信し、生徒が自身の数理的能力を伸長させ、進路意識を高められるような機会を設ける。 ○理数系の各行事の活動状況などを記録するとともに、理数科目に関する興味関心を高めるために、「理数の窓」を発行する。	○講演会等の事後アンケートにおいて、80%の生徒が「進路意識の向上につながった」と回答し、感想などが充実した内容で記入されている。 ○各行事や日頃の活動の様子などを、行事後1週間以内にブログやHPで発信する。 ○月1回程度、「理数の窓」を発行しHPにも掲載する。	○サイエンスチャレンジ参加生徒から充実した内容の感想が伺えた。来年も参加したいという意欲的な感想もあった。 ○第2回の講演会では、93%の生徒が「進路意識の向上につながった」と回答し、感想が充実した内容で書かれていた。 ●岡山県立大学との高大連携事業では、体験活動の様子を当日にブログで発信することができた。 ●理数の窓を月に1回発行し、HPにも掲載することができた。	A
		国際系	○1、2年の国際系単独の授業を活用し、英語スピーチや英語プレゼンテーションの指導をしたり、オープンスクールの内容を見直し、国際系の生徒を前面に押し出した言語活動を中心とした内容として新たに企画したりする。 ○国際系の生徒が授業内外において、英語を活用したり、国際的な行事に参加したりする機会を設ける。	●国際系単独授業やオープンスクールで、新たに生徒を活用した企画を実施する。 ●国際系講演会の時間や英語授業の時間割変更を活用し、国際系の特色となる行事を実施できた。 ●2年生国際系単独クラスではSHRや学校行事においても、留学生やALTを活用し他の類型にない学級経営をしている。	●オープンスクールの改善に加え、1、2年国際系合同スピーチコンテスト、国際系卒業生を動員した交流会、プレゼンや英語交流をメインに構成した新しいイングリッシュデイなど、多くの新企画を行った。 ●スピーチ、ディベート、JICA体験プログラム、留学フェア、フェアトレード交流会、国際塾、東京都英語村などの校外のイベントに多くの生徒を参加させ、1年を通じて生徒がより英語力を伸ばしたり視野を広げる機会を作ることが出来た。	A
		美工系	○社会で活躍している卒業生がだんだん増えているので、その情報を現役生徒と保護者、および本校美工を志す中学生とその保護者に向けて示すため、美術工芸系作品展を今年は卒業生の選抜展と併せて実施する。 ○美工のチラシに社会人の卒業生の紹介を載せ、卒業後の進路に関しての情報を伝える。	○美工展のアンケートで、80%以上の来場者が「卒業生の展示を見て良かった」と回答する。	●卒業生展示に対する来場者の感想は9割以上良い感触のものであった。 ●今年は事前に生徒の作品の展示計画も細かく立てることができた。卒業生の助けもあったが、しかし少人数のわりには早く展示が行えた。 ●美工系の新しいチラシも会期に合わせて作成し、会場に置くことができた。こちらも好評評価であった。 ●生徒の作品を厳選した効果だと思われるが、来場者の方から「作品のレベルが上がった」という感想を複数いただいた。	A
	新たな特色を促進するために、「表現」に関する研究を推進する。	教務課	○先進校視察を行うなど、新教育課程編成に合わせて「表現」に関する学校設定教科・科目の開講に向けての情報収集を行う。	●先進校視察の実現と表現に関する学校設定教科・科目の提案を実施する。 ●本校の学校目標達成に必要な教科・科目・単位数を具体的にあげる。	●愛知県立名古屋西高等学校の創造表現コースへの先進校視察を行い、表現の領域を具体的に設定する検討を行うことが出来た。単位制への移行も視野に現在の類型を活かす方向で創設する。 ●新教科表現の開発もあって、具体的な教育課程の検討は予定通りとは言いが、年度内も作業を進めている。	B
		美工系	○作品を作ること自体も表現であるが、さらに作品に関して自分で考え、言葉で表現する教育活動も同時に行う。 ○作品の構想を練る際、また、作品の講評会の場で、生徒自身に考えさせたり言葉で発表させる活動を取り入れる。	●生徒が全員、自分の言葉で自分の作品や人の作品について考えたことを何らかの形で発表できる。	●作品の講評会や個々の講評、講義の中でも自分の感じたことを言葉により表現する活動を多く取り入れることができた。生徒たちも全員が自分の言葉で考えを語ることができた。	A
		国際系	○学校内や授業内でのプレゼンテーションやディスカッションなど生徒が言語活動のできる機会を提供し、多くの生徒が英語で自分の考えを表現できるようにする。	●生徒の意見や他校の実践を参考に、教員間で授業改善のアイデアを出し合い、教材や指導法を共有したり、活発な情報交換をしたりしている。 ●国際系単独の授業においては、大学受験対策に縛られず、生徒の表現力向上や異文化理解促進を促す授業の工夫がなされている。	●全学年においてICTを積極的に使用し効果的に指導するとともに、教材や指導法のアイデアを教員間で共有することで積極的な授業改善が図られている。 ●1、2年の国際系生徒単独授業では英語で指導することを基本とし、4技能をバランスよく伸ばす内容とした。	A

令和元年度 学校経営の具体的な取組

岡山県立総社南高等学校

【評価】 A:達成基準を上回った。 B:ほぼ達成基準どおり。 C:達成基準を下回った。

(●は取組評価)

学校経営 目標		担当	具体的計画	達成基準	最終達成状況と評価	
					達成状況	評価
目標 4 働き方改革の推進	効果的で効率的な業務を推進するために、主体的で対話的な検討をして実践する。	運営指導部	○生徒と触れ合う時間確保・風通しの良い職場・勤務負担軽減に向けての提案を募集し、新たな取り組みを導入する。	○生徒と触れ合う時間を確保し、風通しの良い職場や勤務負担軽減に関する新たな取組を2つ以上導入する。	○勤務負担軽減の取組として、①2学期から1・2年生の通知表郵送をClassiで行う ②電話連絡によらない欠席連絡について研究・検討を行う ③勤務時間内に会議を終わらせるよう、2月から職員会議の開始時間を15:40とする」 以上3つを行った	A
		教務課	○課内業務の遅滞なくミスのない実施 ○課内外の業務の精選を提案し、負担の軽減とミスの絶無を図る。	●業務カレンダーにより課内分掌を把握する。 ●業務の取り掛かりを早くしたり、繁忙期の業務を他の課員で分配したりして業務の平準化を図る。 ○業務の効率化を検討し、精選案や負担軽減策を複数項目提案する。	●業務カレンダーの作成が負担となっていて課内分掌の相互の把握までは行っていないが、引継ぎや業務検討の資料となるように年度末までに取りまとめる。 ●業務の平準化とまではいかないが、「有朋」のとりまとめなど少数の課員で負担が多い場合は補い合うことができた。会議を設定しなくても負担や課題を言い合えるようにしなければならない。 ●通知表のclassiによる発送により、業務負担の軽減、費用の削減（郵便代、用紙代）、誤配の余地を無くすることができた。今後は、半数弱の郵送希望者には生徒による手渡しを行い、効率化を図る。 ●シラバスの電子化や業務負担の軽減で費用の削減を実現した。	B
		生徒課	○週1回の課会議で情報を共有し連携を図る。 ○課内業務の精選を検討する。	●業務を遅滞なく実施できる。 ●業務多忙期に他の課員で分配するなどして業務の平準化を図る。	●週1回の定例全体会議とともに各学年においての情報共有し、生徒課全体で業務を遂行した。	A
		進路課	○進路に関する資料やデータを精選し、必要な情報を効率よく伝達するように努める。	●進路指導マニュアル、進路シラバス、進路の手引き、進路資料の中身を精選する。 ●各学年の適切な時期に学年会議や集会で適切に伝達、確認するなど、有効に活用する。	●各学年で時期に応じて適切な進路に関わる情報伝達ができた。 ●年度当初に4つの資料(進路指導マニュアル、進路シラバス、進路の手引き、進路資料)作成は時間に追われ大変であった。来年度に向けて、内容の精選をさらに進めていきたい。 ●進研模試結果については、学年全体の資料のみを配付することとし、個々の生徒の結果はパソコン内で閲覧できるようにした。 ●共通テストに向けてしっかり準備を進めたい。毎年課題が見つかるので、多くの先生方の声を聞きながらより良い形を求めていきたい。	B
		厚生課	○生徒が清掃活動に積極的に取り組み、校内の美化が保たれている。 ○倉庫の総整理を行い、開放時に監督者が使用しやすいように整備整頓する。 ○ゴミ減量化活動の収益金を清掃用具購入などに活用する。 ○緊急時の対応に備えて、事前に資料を配付するなどして生徒の防災意識を高め、実践的な防災避難訓練を計画・実施する。	○学校自己評価アンケートで、85%以上の生徒が「清掃への取組具合がほぼ良好である。」と回答する。 ●ゴミ減量化活動の収益金を活用して、清掃道具が整っている状態を保つ。 ●生徒が避難訓練に真剣に取り組んでいる。 ○厚生課アンケートにより、70%以上の生徒が「真剣に取り組むことができた。」と回答する。	○厚生課のアンケートは後日実施するが、倉庫は整理され、監督者が使用しやすい状態である。要望用具もほぼ備わった。 ○廊下の溝や窓などを新しい清掃道具を利用して清掃できるようになった。 ○避難訓練では81パーセントの生徒が「真剣に取り組むことができた」と回答した。	B
		総務課	○関係者から情報を収集し、次年度の学校案内の編集作業を前年度に前倒しする。 ○効果的で効率的な広報を行う。 ○課内業務において適性、経験等を考慮する。 ○お互いに助け合う業務推進を行う。 ○課内分掌の見える化を行う。	○次年度学校案内の編集作業の進捗度を3月までに90%にしておく。 ○12月の第1次進路志望調査において1.2倍を目標とする。 ○リクエスト平均120、000件/月を目標とする。 ○オープンスクールへの参加者が800人を超える。 ○学校見学会参加者数が350人を超える。 ○芸術鑑賞会に対する肯定的な意見が80%を超える。	○HPの運用は、先生方の協力の下、県下でもよくできている方だと考えられる。Wordpressの更新数は県立学校の中でも多いグループに属している。アクセス数に関しては4月96,515件(28位)、5月72,142件(35位)と目標を大きく下回ったが、6月は159,770件(17位)、7月は167,466件(9位)と持ち直した。しかし、8月は22位に順位を落とした。R2年1月現在平均113611.1/月(県のサーバの運用変更が影響) ○オープンスクールにおいては、午前・午後併せて1,075人の来場者となり、地域の中学3年生の生徒数が昨年度より減少している中、多くの来場者を迎えることができた。○学校見学会参加者359名(中3生十保護者)。学校説明会参加者97名。中学校教員対象説明会参加者28名。総務課主催の説明会では良い反響が得られている。 ○第1次進路希望調査1.44倍 ○第2次進路希望調査1.40倍 ○学校案内は16Pにページ数を増やすべく、鋭意努力中。 ○芸術鑑賞においては、82%の生徒から肯定的評価を得た。	A